

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		30/8 1.66 倍	29/8 1.78 倍	前年同月比 -0.12 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	7,753 台	7,645 台	1.41 %
	中古車	2,045 台	2,061 台	-0.78 %
	合計	9,798 台	9,706 台	0.95 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		6~8月 291 件	6~8月 225 件	29.33 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		118,047 人	135,340 人	-12.78 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	293,214 台	296,906 台	-1.24 %
	出	282,992 台	279,835 台	1.13 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	351,233 台	428,994 台	-18.13 %
	出	358,279 台	434,489 台	-17.54 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	105,481 台	435 台	- %
	出	106,371 台	537 台	- %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	309,067 台	350,444 台	-11.81 %
	出	311,973 台	348,027 台	-10.36 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	53,052 台	- 台	- %
	出	49,040 台	- 台	- %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	251,276 台	251,547 台	-0.11 %
	出	242,011 台	247,409 台	-2.18 %

前期 4 - 6月 今期 7 - 9月 来期 10 - 12月 1 - 3月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先202社に対し、平成30年7月～9月期の景気の現状と平成30年10月～12月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

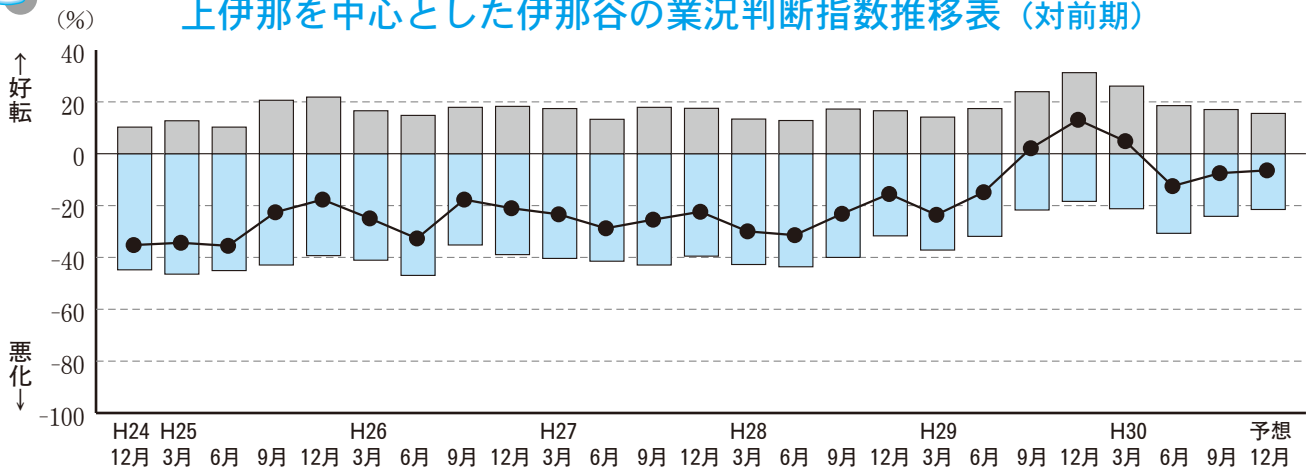
◇**今期の業況**:今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は18.1%(前期19.7%)、悪かったとする企業は24.7%(前期31.4%)、DIは▲6.6(前期▲11.7)と5.1ポイントの上昇ではあるが2期連続のマイナス領域となっている。

業種別のDIを見ると、**製造業**2.9(前期4.2)、**建設業**▲2.5(前期▲14.3)、**卸売業**0.0(前期0.0)、**小売業**▲36.4(前期▲42.4)、**サービス業**▲13.0(前期▲15.4)、**不動産業**33.3(前期▲16.7)で、製造業と不動産業がプラス領域、建設業・小売業・サービス業はマイナス領域となっている。前期と比較して、**製造業**は1.3ポイント下げて弱含み、**卸売業**は前期同様の±0、**建設業**は11.8ポイント、**小売業**は6.0ポイント、**サービス業**は2.4ポイントそれぞれ上げ悪化幅を縮小させた。**不動産業**は50.0ポイント上げプラス転換した。

◇**来期の見通し**:来期の業況を総合的に見ると、良いと予想する企業は16.5%(今期18.1%)、悪いと予想する企業は22.0%(今期24.7%)、DIは▲5.5(今期▲6.6)と僅かに悪化幅が縮小する予想をしている。

業種別のDIを見ると、**製造業**4.3、**建設業**2.5、**卸売業**20.0、**小売業**▲36.4、**サービス業**▲17.4、**不動産業**0.0となっており、**製造業**・**建設業**・**卸売業**はプラス領域、**小売業**・**サービス業**はマイナス領域を予想している。今期と比較して、**製造業**は1.4ポイント上昇し今期を上回り、**建設業**は5.0ポイント上昇しプラス転換、**卸売業**は20.0ポイント上昇で良好感が出る見通しとなっている。**小売業**は今期同様の悪化幅の見通しとなっている。一方で**不動産業**は33.3ポイント下降で好調感が後退、**サービス業**は4.4ポイント下げ低調感を強める見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表 (対前期)



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。
 ※DIとは、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。
 なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☁☀	☁	☁	☁
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁☀	☁	☁	☁☀
小売業		☁	☔	☔	☔
サービス業		☁	☁	☁	☁
不動産業		☁	☁	☀	☁



製 造 業 (調査先企業77社 うち回答企業70社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**24.3%**(前期**30.6%**)、悪かったとする企業は**21.4%**(前期**26.4%**)でDIは**2.9**(前期**4.2**)と**1.3**ポイント低下した。今期の好調感の縮小は僅かではあるが3期連続で前期を下回っている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲5.7**(前期**▲5.6**)で前期とほぼ同様の減少幅で推移した。**受注残**のDIは**▲12.9**(前期**▲5.6**)と**7.3**ポイント低下、**収益**のDIは**▲18.6**(前期**▲5.6**)と**13.0**ポイント低下し、それぞれ増加から減少に転じた。価格の面では**原材料価格**のDIは**▲47.1**(前期**▲47.2**)と前期とほぼ同様の上昇幅となっている。**販売価格**のDIは**5.7**(前期**▲1.4**)と小幅ながら好転した。**資金繰り**のDIは**▲1.4**(前期**0.0**)と僅かに窮屈感が現れた。**借入れ**をした企業は**33.3%**(前期**30.0%**)、**設備投資の実施**をした企業は**52.2%**(前期**56.5%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**は**DI1.4**(前年同期**26.8**)と**25.4**ポイント下降した。**収益**は**DI▲14.3**(前年同期**9.9**)と**24.2**ポイント下降で水面下に落ち込んでいる。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DIは**4.3**(今期**2.9**)と**1.4**ポイント上昇、僅かに良化を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**は**DI14.3**(今期**▲5.7**)、**受注残**は**DI10.0**(今期**▲12.9**)、**収益**は**DI5.7**(今期**▲18.6**)とそれぞれ増加に転じる見通しである。**原材料価格**のDIは**▲31.4**(今期**▲47.1**)と価格の上昇を予想する企業は今期より減少、**販売価格**のDIは**5.7**(今期**5.7**)と今期同様で推移する見通しである。**資金繰り**のDIは**▲2.9**(今期**▲1.4**)と僅かに悪化傾向を強める見通しである。**借入れ**を予定している企業は**25.4%**(今期**33.3%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**54.4%**(今期**52.2%**)となっている。

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	19.7	35.2	23.5	4.2	2.9	4.3
売 上 額	12.7	31.0	5.9	▲5.6	▲5.7	14.3
受 注 残	8.5	19.7	10.3	▲5.6	▲12.9	10.0
収 益	▲1.4	21.1	2.9	▲5.6	▲18.6	5.7
販 売 価 格	▲1.4	▲4.2	2.9	▲1.4	5.7	5.7
原 材 料 価 格	▲18.3	▲42.3	▲44.1	▲47.2	▲47.1	▲31.4
原 材 料 在 庫	5.6	11.3	5.9	12.5	14.3	8.6
資 金 繰 り	1.4	4.2	4.4	0.0	▲1.4	▲2.9

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	し た	33.8	28.2	36.8	30.0	33.3	25.4
	し ない	66.2	71.8	63.2	70.0	66.7	74.6
借 入 難 易 度	容 易	17.1	9.9	11.8	9.7	8.6	—
	不 変	68.6	73.1	67.6	68.1	78.6	—
	難	8.6	8.5	8.8	8.3	7.1	—
	該 当 なし	5.7	8.5	11.8	13.9	5.7	—

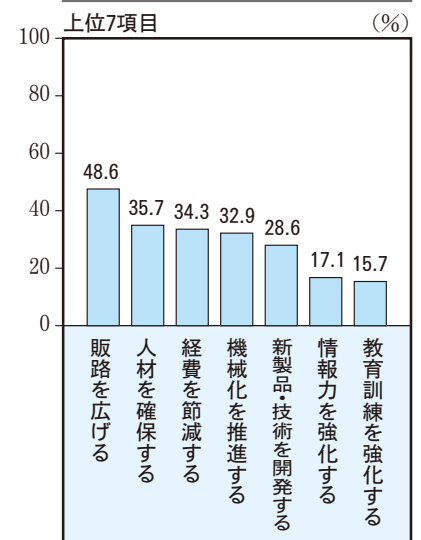
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	し た	49.4	50.6	52.3	56.5	52.2	54.4
	し ない	50.6	49.4	47.7	43.5	47.8	45.6
状 況	過 剰	4.2	0.0	2.9	6.9	1.4	4.3
	適 正	63.4	66.2	69.2	61.2	68.6	65.3
	不 足	32.4	33.8	27.9	31.9	30.0	30.4
DI	▲28.2	▲33.8	▲25.0	▲25.0	▲28.6	▲26.1	

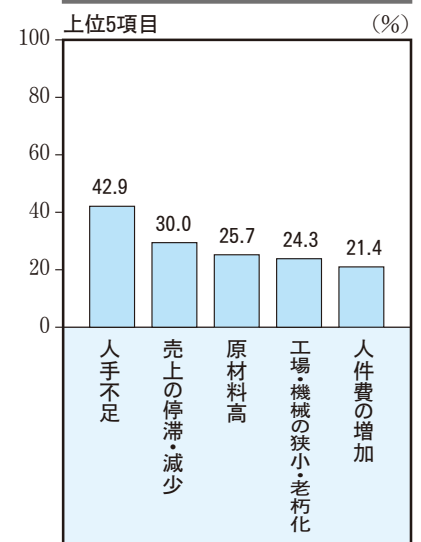
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	22.5	33.8	30.9	13.9	17.1	17.1
	不 変	60.6	52.1	58.8	56.9	57.2	65.8
	減 少	16.9	14.1	10.3	29.2	25.7	17.1
人 手	過 剰	1.4	2.8	1.5	4.2	7.1	2.9
	適 正	60.6	50.7	47.0	63.4	52.9	52.8
	不 足	38.0	46.5	51.5	32.4	40.0	44.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業

(調査先企業43社 うち回答企業42社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**15.0%**(前期**11.9%**)、悪かったとする企業は**17.5%**(前期**26.2%**)で、DIは**▲2.5**(前期**▲14.3**)と**11.8**ポイント上昇で悪化幅が縮小した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲19.0**(前期**▲19.0**)と前期同様の減少幅、受注残のDIは**▲9.5**(前期**▲14.3**)と**4.8**ポイント改善した。施工高のDIは**▲19.0**(前期**▲26.2**)と**7.2**ポイント改善した。収益のDIは**▲16.7**(前期**▲23.8**)と**7.1**ポイント改善した。価格面では請負価格がDI**▲2.4**(前期**▲11.9**)と**9.5**ポイント上昇で下降幅が縮小した。材料価格はDI**▲56.1**(前期**▲35.7**)で、価格が上昇したとする企業の割合が増加した。資金繰りについては、DI**▲14.3**(前期**▲23.8**)と**9.5**ポイント改善した。借入れをした企業は**42.9%**(前期**43.9%**)、設備投資の実施をした企業は**39.6%**(前期**100.0%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲11.9**(前年同期**▲13.5**)と**1.6**ポイント僅かに改善、収益のDIは**▲21.4**(前年同期**▲27.0**)と**5.6**ポイント改善した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**2.5**(今期**▲2.5**)と**5.0**ポイント上昇し、プラス転換を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額はDI**31.0**(今期**▲19.0**)、受注残はDI**21.4**(今期**▲9.5**)とそれぞれ大きく好転する見通しである。収益はDI**4.8**(今期**▲16.7**)と増加に転じる見通しである。請負価格はDI**0.0**(今期**▲2.4**)と下降が改善する見通しである。材料価格はDI**59.5**(今期**▲56.1**)と上昇傾向をさらに強める見通しである。資金繰りはDI**9.5**(今期**▲14.3**)と改善する見通しである。借入れを予定している企業は**43.9%**(今期実施**42.9%**)、設備投資の実施を予定している企業は**30.4%**(今期実施**39.6%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	0.0	27.5	2.4	▲14.3	▲2.5	2.5
売 上 額	▲5.3	37.5	▲22.0	▲19.0	▲19.0	31.0
受 注 残	2.6	30.0	▲22.0	▲14.3	▲9.5	21.4
収 益	▲23.7	5.0	▲24.4	▲23.8	▲16.7	4.8
販 売 価 格	▲7.9	0.0	▲9.8	▲11.9	▲2.4	0.0
原 材 料 価 格	▲26.3	▲40.0	▲27.5	▲35.7	▲56.1	▲59.5
原 材 料 在 庫	2.7	2.5	0.0	4.8	4.8	4.8
資 金 繰 り	▲18.4	▲12.5	▲17.1	▲23.8	▲14.3	▲9.5

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	42.1	45.0	48.8	43.9	42.9	43.9
	しない	57.9	55.0	51.2	56.1	57.1	56.1
借 入 難 易 度	容 易	5.4	5.0	7.5	9.7	7.3	—
	不 変	62.2	55.0	65.0	53.7	65.9	—
	難	16.2	22.5	17.5	24.4	14.6	—
	該当なし	16.2	17.5	10.0	12.2	12.2	—

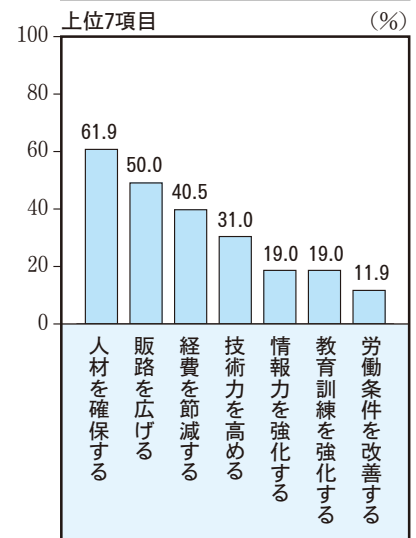
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	33.3	39.1	42.2	100.0	39.6	30.4
	しない	66.7	60.9	57.8	0.0	60.4	69.6
状 況	過 剰	8.1	2.5	2.5	2.4	4.9	2.6
	適 正	83.8	85.0	85.0	85.4	90.2	89.5
	不 足	8.1	12.5	12.5	12.2	4.9	7.9
DI	0.0	▲10.0	▲10.0	▲9.8	0.0	▲5.3	

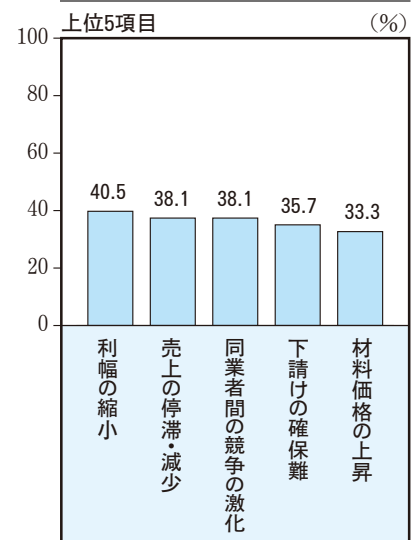
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	8.1	25.6	12.2	4.8	7.1	19.0
	不 変	70.3	64.1	78.0	69.0	81.0	81.0
	減 少	21.6	10.3	9.8	26.2	11.9	0.0
人 手	過 剰	10.5	0.0	4.9	4.8	0.0	2.4
	適 正	47.4	55.0	53.6	66.6	52.4	50.0
	不 足	42.1	45.0	41.5	28.6	47.6	47.6

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業10社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**10.0%**(前期**33.3%**)、悪かったとする企業は**10.0%**(前期**33.3%**)で、DIは**0.0**(前期**0.0**)と2期連続の横ばい状態である。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**40.0**(前期**22.2**)と増加傾向を強めた。収益のDIは**10.0**(前期**33.3**)と増加幅が縮小した。価格面では、販売価格のDIは**20.0**(前期**22.2**)と前期並みの上昇幅で推移したが、仕入価格はDI**▲40.0**(前期**▲22.2**)と上昇が強まった。資金繰りはDI**▲10.0**(前期**33.3**)と窮屈感が現れた。借入れをした企業は**40.0%**(前期**22.2%**)、設備投資の実施をした企業は**60.0%**(前期**11.1%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**0.0**(前年同期**0.0**)と増減は横ばい状態、収益のDIは**▲10.0**(前年同期**▲30.0**)と減益幅が縮小した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**20.0**(今期**0.0**)と**20.0**ポイント上昇し、好調感が出る予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**20.0**(今期**40.0**)と増加幅が縮小、収益のDIは**20.0**(今期**10.0**)と増加幅が拡大する見通しである。価格面では、販売価格はDI**10.0**(今期**20.0**)、仕入価格はDI**▲30.0**(今期**▲40.0**)とそれぞれ上昇が弱まる見通しである。借入れを予定している企業は**40.0**(今期実施**40.0%**)、設備投資の実施を予定している企業は**53.3%**(今期実施**60.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	0.0	10.0	11.1	0.0	0.0	20.0
売 上 額	40.0	10.0	▲22.2	22.2	40.0	20.0
収 益	30.0	0.0	▲33.3	33.3	10.0	20.0
販 売 価 格	0.0	20.0	11.1	22.2	20.0	10.0
仕 入 価 格	▲10.0	▲30.0	▲22.2	▲22.2	▲40.0	▲30.0
在 庫	10.0	10.0	11.1	11.1	30.0	10.0
資 金 繰 り	10.0	0.0	▲37.5	33.3	▲10.0	30.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	20.0	40.0	55.6	22.2	40.0	40.0
	しない	80.0	60.0	44.4	77.8	60.0	60.0
借 入 難 易 度	容 易	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	—
	不 変	90.0	80.0	77.8	88.9	60.0	—
	難	0.0	0.0	11.1	0.0	10.0	—
	該当なし	0.0	10.0	11.1	11.1	20.0	—

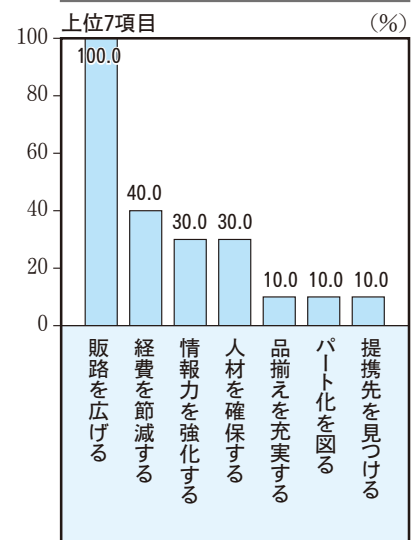
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	20.0	0.0	11.1	11.1	60.0	53.3
	しない	80.0	100.0	88.9	88.9	40.0	46.7
状 況	過 剰	0.0	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0
	適 正	80.0	80.0	77.8	77.8	80.0	80.0
	不 足	20.0	20.0	11.1	22.2	10.0	10.0
DI	▲20.0	▲20.0	0.0	▲22.2	0.0	0.0	

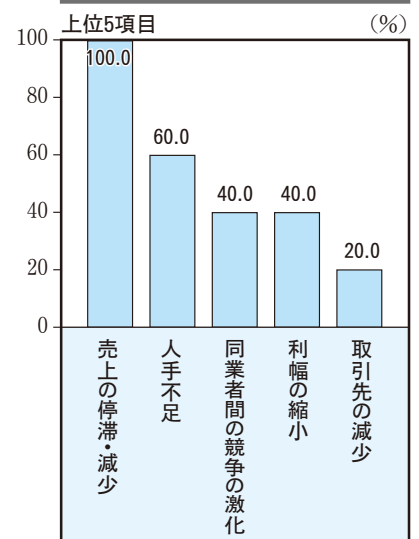
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	0.0	30.0	0.0	0.0	30.0	40.0
	不 変	100.0	70.0	88.9	100.0	60.0	50.0
	減 少	0.0	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0
人 手	過 剰	10.0	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0
	適 正	70.0	60.0	66.7	66.7	60.0	40.0
	不 足	20.0	40.0	22.2	33.3	30.0	50.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

小 売 業

(調査先企業39社 うち回答企業34社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**12.1%**（前期**12.1%**）、悪かったとする企業は**48.5%**（前期**54.5%**）で、DI**▲36.4**（前期**▲42.4**）と**6.0**ポイント上昇した。前期は大幅な悪化となったが、今期は小幅ながら持ち直した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲23.5**（前期**▲45.5**）、収益のDIは**▲26.5**（前期**▲54.5**）とそれぞれ**22.0**ポイント、**28.0**ポイント持ち直した。販売価格のDIは**17.6**（前期**24.2**）と価格の上昇に小幅ながら弱まりをみせたが、仕入価格のDIは**▲32.4**（前期**▲33.3**）と前期とほぼ同様の上昇傾向となっている。資金繰りのDIは**▲23.5**（前期**▲18.2**）と**5.3**ポイント厳しさが増した。借入れをした企業は**20.6%**（前期**18.2%**）、設備投資の実施をした企業は**13.9%**（前期**15.2%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲20.6**（前年同期**0.0**）、収益のDIは**▲26.5**（前年同期**▲16.7**）とそれぞれ**20.6**ポイント、**9.8**ポイント減少した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**▲36.4**（今期**▲36.4**）と今期と同様の悪化幅を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲2.9**（今期**▲23.5**）、収益のDIは**▲8.8**（今期**▲26.5**）と改善する見通しである。販売価格のDIは**8.8**（今期**17.6**）、仕入価格のDIは**▲20.6**（今期**▲32.4**）と、販売価格と仕入価格ともに価格の上昇が弱まる見通しである。借入れを予定している企業は**14.7%**（今期実施**20.6%**）、設備投資の実施を予定している企業は**21.6%**（今期実施**13.9%**）となっている。

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲27.8	▲16.2	▲11.1	▲42.4	▲36.4	▲36.4
売 上 額	▲5.6	27.0	8.3	▲45.5	▲23.5	▲2.9
収 益	▲8.3	0.0	▲11.1	▲54.5	▲26.5	▲8.8
販 売 価 格	5.6	16.2	16.7	24.2	17.6	8.8
仕 入 価 格	▲5.6	▲21.6	▲34.3	▲33.3	▲32.4	▲20.6
在 庫	22.9	24.3	22.2	15.2	2.9	8.8
資 金 繰 り	▲19.4	▲8.1	▲28.6	▲18.2	▲23.5	▲5.9

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	25.0	13.9	25.7	18.2	20.6	14.7
	しない	75.0	86.1	74.3	81.8	79.4	85.3
借 入 難 易 度	容 易	17.1	19.4	8.8	15.6	17.6	—
	不 変	40.0	33.4	52.9	50.0	41.2	—
	難	22.9	25.0	23.5	12.5	14.7	—
	該当なし	20.0	22.2	14.8	21.9	26.5	—

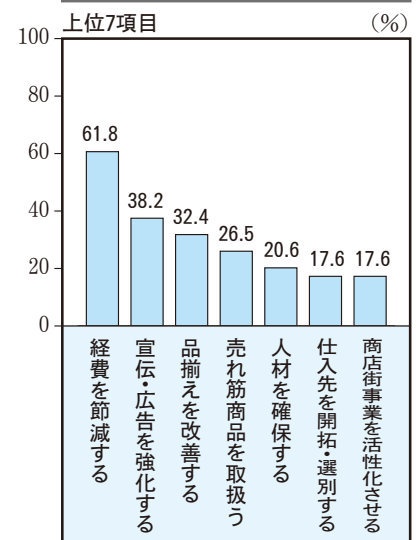
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	19.4	18.9	10.8	15.2	13.9	21.6
	しない	80.6	81.1	89.2	84.8	86.1	78.4
状 況	過 剰	5.7	8.3	11.4	6.3	9.1	6.1
	適 正	71.4	72.3	62.9	87.4	84.8	87.8
	不 足	22.9	19.4	25.7	6.3	6.1	6.1
DI	▲17.2	▲11.1	▲14.3	0.0	3.0	0.0	

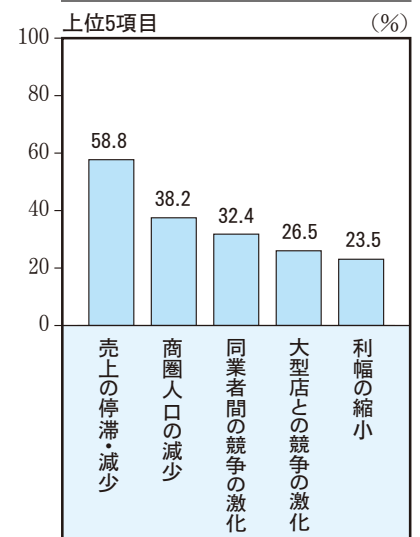
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	0.0	2.8	2.9	0.0	8.8	8.8
	不 変	97.1	91.7	91.2	97.0	85.3	79.4
	減 少	2.9	5.5	5.9	3.0	5.9	11.8
人 手	過 剰	9.1	8.3	2.9	3.1	5.9	5.9
	適 正	72.7	69.4	71.4	84.4	73.5	70.6
	不 足	18.2	22.3	25.7	12.5	20.6	23.5

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業23社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は13.1%(前期11.5%)、悪かったとする企業は26.1%(前期26.9%)で、DIは▲13.0(前期▲15.4)と2.4ポイント上昇、業況は小幅持ち直した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは13.0(前期23.1)と10.1ポイント減少で伸び悩み、収益のDIは▲8.7(前期0.0)と8.7ポイント下げ減少状態となった。仕入価格のDIは▲34.8(前期▲38.5)と上昇幅がやや減少した。料金価格のDIは8.7(前期15.4)と価格の上昇が弱まった。資金繰りのDIは▲17.4(前期▲19.2)と僅かに改善した。借入れをした企業は17.4%(前期20.0%)、設備投資の実施をした企業は41.4%(前期26.7%)となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI▲4.3(前年同期8.0)と12.3ポイント減少で水面下に落ち込み、収益はDI▲17.4(前年同期0.0)と17.4ポイント減少で低迷した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI▲17.4(今期▲13.0)と、悪化傾向が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲17.4(今期13.0)と増加から減少に転じ、収益のDIは▲13.0(今期▲8.7)と減少する見通しである。仕入価格のDIは▲17.4(今期▲34.8)と上昇が弱まり落ち着きをみせる見通しである。料金価格のDIは4.3(今期8.7)とこちらも上昇が弱まる見通しである。資金繰りのDIは▲21.7(今期▲17.4)とやや厳しさが増す見通しである。借入れを予定している企業は18.2%(今期実施17.4%)、設備投資の実施を予定している企業は30.8%(今期実施41.4%)となっている。

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	0.0	▲13.0	▲8.3	▲15.4	▲13.0	▲17.4
売 上 額	12.0	▲25.0	▲20.8	23.1	13.0	▲17.4
収 益	12.0	▲25.0	▲29.2	0.0	▲8.7	▲13.0
料 金 価 格	16.0	▲8.3	▲4.2	15.4	8.7	4.3
材 料 価 格	▲28.0	▲29.2	▲33.3	▲38.5	▲34.8	▲17.4
資 金 繰 り	▲8.0	▲16.7	▲25.0	▲19.2	▲17.4	▲21.7

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	し た	40.0	25.0	17.4	20.0	17.4	18.2
	し ない	60.0	75.0	82.6	80.0	82.6	81.8
借 入 難 易 度	容 易	4.2	4.8	4.3	12.0	14.3	—
	不 変	70.8	71.4	65.2	64.0	57.1	—
	難	16.7	14.3	17.4	12.0	19.0	—
	該 当 なし	8.3	9.5	13.1	12.0	9.6	—

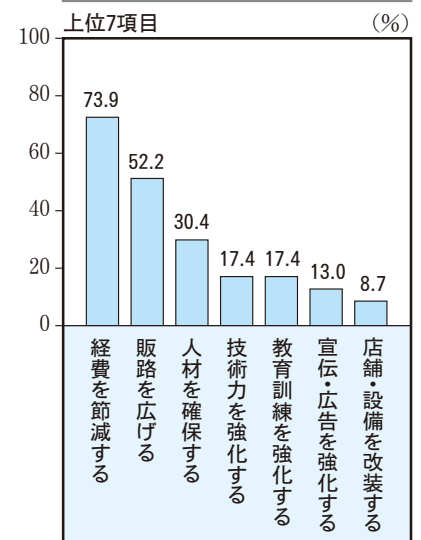
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	し た	35.7	37.0	24.0	26.7	41.4	30.8
	し ない	64.3	63.0	76.0	73.3	58.6	69.2
状 況	過 剰	0.0	4.3	0.0	12.0	0.0	0.0
	適 正	80.0	82.7	87.5	72.0	63.6	71.4
	不 足	20.0	13.0	12.5	16.0	36.4	28.6
DI	▲20.0	▲8.7	▲12.5	▲4.0	▲36.4	▲28.6	

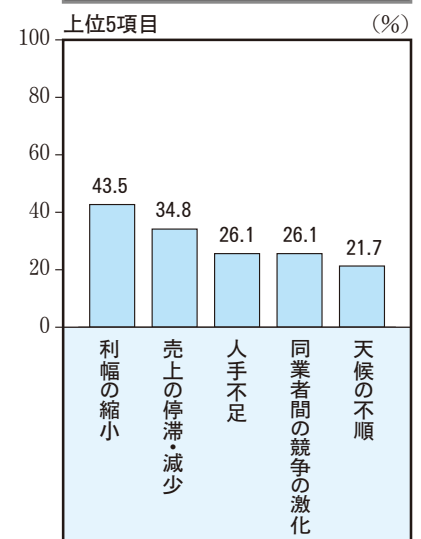
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	25.0	13.0	13.6	29.2	25.0	20.0
	不 変	66.7	87.0	77.3	62.5	65.0	65.0
	減 少	8.3	0.0	9.1	8.3	10.0	15.0
人 手	過 剰	4.0	4.5	8.3	12.0	0.0	0.0
	適 正	60.0	54.5	58.4	68.0	72.7	68.2
	不 足	36.0	41.0	33.3	20.0	27.3	31.8

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**33.3%**(前期**0.0%**)、悪かったとする企業は**0.0%**(前期**16.7%**)で、DIは**33.3**(前期**▲16.7**)と好転した(3期ぶりのプラス領域)。

各指標別を前期比で見ると、売上額と収益のDIは**▲16.7**(前期**▲16.7**)と、前期同様の減少幅で推移した。販売価格のDIは**0.0**(前期**0.0**)と前期同様の価格不変で推移した。仕入価格のDIは**16.7**(前期**16.7**)と前期同様の下降幅で推移した。借入れをした企業は**16.7%**(前期**16.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**33.3**(前年同期**40.0**)、収益のDIは**16.7**(前年同期**40.0**)とそれぞれ増加幅が縮小した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**0.0**(今期**33.3**)と好感度が後退する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額と収益のDIは**33.3**(今期**▲16.7**)とそれぞれ改善する見通しである。販売価格のDIは**0.0**(今期**0.0**)と価格不変が続く見通しである。仕入価格のDIは**16.7**(今期**16.7**)と今期同様の下降幅の見通しである。借入れを予定している企業は**16.7%**(今期実施**16.7%**)となっている。

◆DI指数推移

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	40.0	▲16.7	▲16.7	▲16.7	33.3	0.0
売 上 額	▲20.0	33.3	▲16.7	▲16.7	▲16.7	33.3
収 益	▲20.0	0.0	▲16.7	▲16.7	▲16.7	33.3
販 売 価 格	0.0	16.7	▲33.3	0.0	0.0	0.0
仕 入 価 格	20.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7
在 庫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資 金 繰 り	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0

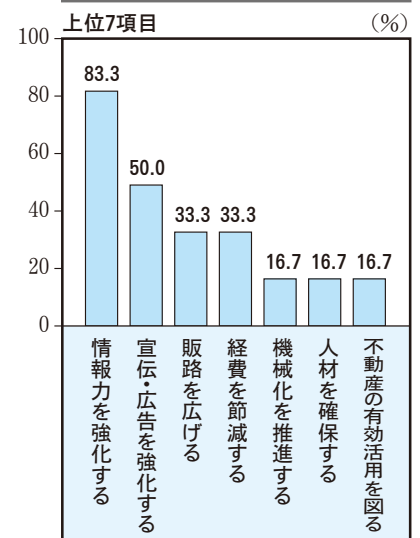
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
借 入 実 施	し た	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7
	し ない	100.0	83.3	83.3	83.3	83.3
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	不 変	75.0	83.3	60.0	83.3	100.0
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	該 当 なし	25.0	16.7	20.0	16.7	0.0

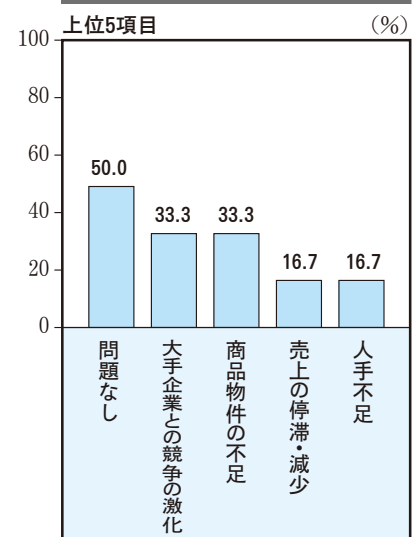
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	平成29年		平成30年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	75.0	100.0	80.0	100.0	100.0
	減 少	25.0	0.0	20.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	100.0	80.0	83.3	100.0
	不 足	0.0	0.0	20.0	16.7	0.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 中小企業経営者と「人生100年時代」

問 1 社長(代表者)は、今後の10年先の自社の経営についてどのように展望していらっしゃるでしょうか。併せて、現在の社長(代表者)の年齢階層をお答えください。

【10年先の自社の経営展望】

総合では、「現状維持・横ばい」が41.8%と一番多く、次いで「事業拡大」32.1%、「わからない」13.6%、「事業縮小」7.1%、「廃業・事業譲渡予定」5.4%の順になっている。

業種別で見ると、「現状維持・横ばい」では建設業が59.6%と一番多く、次いでサービス業50.0%、小売業38.3%、製造業34.8%の順になっている。「事業拡大」では卸売業が63.6%と一番多く、次いで不動産業50.0%、製造業47.8%の順になっている。

【社長(代表者)の年齢階層】

総合では、「60歳代」が37.2%と一番多く、次いで「50歳代」25.6%、「70歳代以上」18.3%、「40歳代」17.2%の順になっている。『60歳代以上』(「60歳代」「70歳代以上」の合計)では半数を超える55.5%となっている。『60歳代以上』を業種別で見ると、建設業が72.5%と一番多く、次いでサービス業54.5%、小売業53.0%、製造業52.2%、卸売業と不動産業33.3%の順になっている。(%)

【10年先の自社の経営展望】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 事業拡大	32.1	47.8	9.5	63.6	20.6	22.8	50.0
2. 現状維持・横ばい	41.8	34.8	59.6	27.3	38.3	50.0	16.7
3. 事業縮小	7.1	4.4	7.1	0.0	14.7	4.5	16.7
4. 廃業・事業譲渡予定	5.4	2.9	7.1	0.0	8.8	4.5	16.6
5. わからない	13.6	10.1	16.7	9.1	17.6	18.2	0.0
【社長(代表者)の年齢階層】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 20歳代・30歳代	1.7	1.5	0.0	0.0	2.9	4.5	0.0
7. 40歳代	17.2	24.6	5.0	33.4	14.7	4.5	50.0
8. 50歳代	25.6	21.7	22.5	33.3	29.4	36.5	16.7
9. 60歳代	37.2	29.0	60.0	33.3	32.4	40.9	0.0
10. 70歳代以上	18.3	23.2	12.5	0.0	20.6	13.6	33.3

問 2 「人生100年時代」という言葉が生まれるなど、健康寿命の長期化に社会的関心が高まっている中で、今後、経営者が現役で活躍する年齢は高まっていくものと考えられます。そのような中で、社長(代表者)は、経営者としていつ頃まで現役を続けたいとお考えですか。

総合では、『具体的な年齢の目途がある』(1~6の合計)と『具体的な年齢の目途はない』(7~10の合計)はおおよそ半々となっている。『具体的な年齢の目途がある』では「70~74歳」が16.8%と一番多く、次いで「65~69歳」14.6%、「75~79歳」9.7%、「60~64歳」4.3%の順になっている。『具体的な年齢の目途はない』では「後継者に托せるようになるまでは現役」が32.4%と一番多く、次いで「健康が続く限り生涯現役」10.8%、「まったく考えていない」6.5%の順になっている。

業種別で見ても総合とほぼ同様である。

(%)

【具体的な年齢の目途がある】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
具体的な年齢の目途がある割合	49.2	49.3	52.4	50.0	41.2	54.6	50.0
1. 60歳未満	1.6	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
2. 60~64歳	4.3	7.3	2.4	0.0	2.9	4.6	0.0
3. 65~69歳	14.6	21.7	14.3	0.0	5.9	13.6	16.7
4. 70~74歳	16.8	15.9	19.0	25.0	14.7	18.2	0.0
5. 75~79歳	9.7	1.5	16.7	0.0	17.7	13.6	16.7
6. 80歳以上	2.2	2.9	0.0	0.0	0.0	4.6	16.6
【具体的な年齢の目途はない】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
具体的な年齢の目途はない割合	50.8	50.7	47.6	50.0	58.8	45.4	50.0
7. 健康が続く限り生涯現役	10.8	5.8	7.1	8.3	17.7	22.7	16.7
8. 後継者に托せるようになるまでは現役	32.4	37.7	35.7	33.4	23.5	22.7	33.3
9. 生活資金の見通しがつくまで現役	1.1	1.4	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
10. まったく考えていない	6.5	5.8	4.8	8.3	14.7	0.0	0.0

問 3 社長(代表者)は、経営者を引退した後の生活資金についてどのようにお考えですか。

総合では、『十分だと思う』(1~4の合計)は47.5%で、『まだ不十分だと思う』(5~8の合計)の30.6%を上回っている。「まだ考えていない」の回答も19.7%ある。『十分だと思う』では「何とかなる」が19.7%と一番多く、次いで「年金・保険が見込める」12.5%、「貯蓄・資産がすでに十分ある」10.9%、「会社からの退職金が見込める」4.4%の順になっている。『まだ不十分だと思う』では、「貯蓄・資産が十分ではない」12.6%、「何となく不安である」12.0%が多い回答になっている。

【十分だと思う】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
十分だと思う割合	47.5	50.7	53.7	83.4	26.5	33.3	66.7
1. 貯蓄・資産がすでに十分にある	10.9	7.2	17.1	25.0	11.8	0.0	16.7
2. 会社からの退職金が見込める	4.4	8.7	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 年金・保険が見込める	12.5	14.5	12.2	16.7	8.8	14.3	0.0
4. 何とかなる	19.7	20.3	19.5	41.7	5.9	19.0	50.0
【まだ不十分だと思う】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
まだ不十分だと思う割合	30.6	24.6	26.8	0.0	58.8	38.1	0.0
5. 貯蓄・資産が十分ではない	12.6	10.1	7.3	0.0	20.6	28.5	0.0
6. 会社からの退職金が見込めない	3.3	2.9	4.9	0.0	2.9	4.8	0.0
7. 年金・保険が見込めない	2.7	2.9	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0
8. 何となく不安である	12.0	8.7	14.6	0.0	26.5	4.8	0.0
【その他】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
9. まだ考えていない	19.7	23.2	19.5	8.3	11.8	23.8	33.3
10. 引退しない	2.2	1.5	0.0	8.3	2.9	4.8	0.0

問 4

「人生100年時代」を見据えて、社長(代表者)は、個人としてどのような資産管理・運用をされていますか。

総合では、「預貯金(円貨)」が63.2%と群を抜いて一番多く、次いで「個人年金保険」22.2%、「何もしていない」14.6%、「共済等その他保険商品」13.5%、「不動産」11.4%、「株式」9.2%、「投資信託」8.6%の順になっている。(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 預貯金(円貨)	63.2	65.7	66.7	60.0	55.9	65.2	50.0
2. 外貨預金	2.7	2.9	2.4	0.0	2.9	0.0	16.7
3. 債券(国債・社債等)	1.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 投資信託	8.6	7.1	7.1	20.0	11.8	4.3	16.7
5. 株式	9.2	7.1	14.3	0.0	5.9	13.0	16.7
6. 不動産	11.4	8.6	16.7	20.0	5.9	8.7	33.3
7. 個人年金保険	22.2	25.7	7.1	10.0	26.5	39.1	16.7
8. 共済等その他保険商品	13.5	14.3	9.5	10.0	20.6	13.0	0.0
9. 仮想通貨	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10. 何もしていない	14.6	14.3	19.0	20.0	17.6	4.3	0.0

問 5

「人生100年時代」を見据えて、社長(代表者)は、現役を退いた後の生活イメージについて描いているものはありますか。

総合では、「趣味や娯楽」が44.3%と一番多く、次いで「家族との時間を過ごす」35.7%、「そのとき考える(今は考えていない)」29.2%、「ボランティア・社会貢献活動」15.7%、「現役を退いても会社に関わりたい」14.6%、「自己啓発・学び直し」11.9%、「技能・ノウハウの次世代への伝承」11.4%の順になっている。多くの社長(代表者)は趣味や娯楽、家族との時間を過ごすことを生活イメージに描いている。(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 家族との時間を過ごす	35.7	32.9	38.1	60.0	32.4	30.4	50.0
2. ボランティア・社会貢献活動	15.7	10.0	23.8	20.0	20.6	4.3	33.3
3. 趣味や娯楽	44.3	40.0	35.7	50.0	52.9	47.8	83.3
4. 何もせずゆっくり過ごす	5.4	4.3	0.0	0.0	17.6	4.3	0.0
5. 技能・ノウハウの次世代への伝承	11.4	15.7	11.9	20.0	5.9	4.3	0.0
6. 自己啓発・学び直し	11.9	11.4	16.7	0.0	5.9	17.4	16.7
7. 新たに起業する	2.2	1.4	2.4	0.0	0.0	8.7	0.0
8. 生涯現役の経営者でいたい(引退しない)	7.0	7.1	2.4	0.0	11.8	13.0	0.0
9. 現役を退いても会社に関わりたい	14.6	17.1	23.8	10.0	5.9	8.7	0.0
10. そのときを考える(今は考えていない)	29.2	32.9	33.3	30.0	17.6	30.4	16.7

商品のご案内

お使いみち ご自由(事業性資金もOK!)

お申込みいただける方

- 満20歳以上、完済時満90歳以下の個人または個人事業主の方
- 当金庫の営業地域内に居住または勤務されている方
- 安定継続した収入のある方(パート、アルバイト、年金収入の方もOK)
- 世帯収入のある専業主婦(夫)の方

ご融資金額 10万円以上500万円以下(1万円単位)

ご融資利率

- 保証会社の審査により年5.8%、年9.0%、年13.5%(各金利とも保証料含む固定金利)のいずれかとさせていただきます。

ご融資期間 6ヶ月以上10年以内
但し、ご融資金額が300万円以下の方は7年以内

ご返済方法

- 元利均等定額返済(ご返済日は毎月6日・16日のいずれかの日となります)
- お申込金額の50%以内についてボーナス併用返済もご座います。

担保・保証人 不要 [無クレディセゾン保証付]

●詳しくは当金庫各支店窓口までお問い合わせください。
●店頭にご来店の際は明書をご用意しております。
●審査結果によってはお申込金額の減額またはご希望に添えない場合があります。